



日本女子体育大学

# Dance Letter

Vol.39

## 3年生パフォーマンス

### 所崎 紗良沙(4年) 坂本研究室

今3年生パフォーマンスをメンバー全26人で駆け抜け、やり遂げることができたのは、私にとって誇れる経験となりました。坂本研究室は他の研究室に比べ人数が多いですが、そこが強みでもあり、様々なことに卓越したメンバーが揃っています。坂本先生の熱いご指導の下、振り付けや踊りの面、制作など個々の力を合わせながらこの舞台を創り上げてきました。

今回の作品は「廃墟」がテーマです。朽ちてもなおその場所にあり続けるものの神秘的な強さやそこから生まれる美しさを表現しました。今年度はコロナ禍の中での活動となり、イレギュラーなこと続きでしたが、どのような状況下でも、創り、踊り続けることを望んだ私たちの強い想いは、作品が魂を宿すことに繋がりました。逆境であるからこそ生まれるものがあることも舞踊創作の面白さであり、それもまた芸術の一面であると感じました。

また、3年生パフォーマンスに向けてご指導、準備して下さった先生方、助手さん、舞台を支えて下さったスタッフの皆さんのお力添えがあったからこそ、無事実施することができました。心より感謝申し上げます。

研究室での活動で学んだことを活かしながら、集大成である卒業公演に向けて、邁進していきたいと思います。



### 小泉 結佳(4年) 高野研究室

心と身体が離れていく。ゆっくりゆっくり離れていく。抱きしめあって一つで、それがそれでいて一番良いと判っている。それでもここから離れていく。

わたしたちは、頭と心と身体の視点からダンスを構築していくという研究活動を通して作品を作っていました。3つのチームを同時に進めながら作品を作っていくことは、制作者の私にとっても、はじめての試みでたくさんの発見がありました。ただ振付を与えて作る作品ではなく、メンバー全員が自ら踊る振付に関わっていったことで、制作側の意図する作品解釈を超えた、メンバーそれぞれの解釈ができていったと思います。一人ひとりダンスについて研究をしていったことで、メンバー自身が作品となった感覚もありました。そういった意味でも、自分たちの踊りを深めていくことができたと思います。これから卒業公演に向けた研究活動が始まりますが、この3年生パフォーマンスで得た経験をもとに、最後までメンバー全員で高めあっていきたいです。



### 横山 さくら(4年) 松山研究室

私たちの初めての研究室活動は走り出しから様々なことに気を遣いながら進めていかなければならない日々でした。そもそも2020年度の3年生パフォーマンスはその開催自体が危ぶまれた中、先生方・助手さん・学生スタッフのサポートや2020年の状況に応じた対策があり、なんとか開催することができたイベントでありました。状況によっては開催できなくなっても仕方ないと割り切りつつも、結果的に無事終演することができ、久々に1つのイベントで感動を共有する体験ができた時間にとっても幸せを感じました。

私たち松山研究室は非常ににぎやかで、ダンスにも日常にもそれぞれの色があるメンバーが揃い、創作しながらそれらが交わる様子をみんなで楽しみながら時間が経過していった印象です。今回の作品は「世の中で起きていることや目に見えているもの全てが真実ではないかもしれない」というようなところから発展し、私達の舞台上演を観るお客さんの先入観や概念のようなものを「どのような方法で裏切っていくか」という点に重きを置いて振付者を中心に作品を創っていきました。舞台上で紙を切る演出等、その時々でどうなるかわからない実験的な展開も用い、私はそれへのスリルと共に松山研究室の皆を感じながら演技することができました。時間が経ち、気持ちが晴れない時期があっても、松山研の仲間とのこの時の写真や動画を見ると気持ちが高揚します。そんな大好きなメンバーとともに3パフォでの反省も生かしながら卒業公演に向けてまた走り出したいと思います。



### 金子 美紗希(4年) 石川研究室

私たちにとって最初で最後の3年生パフォーマンスは、例年とは大きく異なる過程を経て本番を迎えました。研究室の活動が開始した4月は、まだ舞台に立てるかどうか分からない状態でした。仲間と顔を合わせることが出来ず、ひとりで不安や悩みを抱えながら時間だけが過ぎていくような感覚がとてもしんどかったです。しかし、そんな中だったからこそ、初めて対面で練習が出来たときはこれまで以上に仲間と踊ることの幸せを感じられたように思います。

今回私たち石川研究室では、「風」をテーマに作品を作りました。後半ではジャズダンスならではの細かく激しい音に合わせた振付を見どころとし、練習にかなりの時間を費やしました。今年是对面での練習時間が削られていた中、オンラインで振付を教わっていたこともあり、個々のタイミングや癖を一つに合わせていくことの難しさを痛感しました。しかし、この公演にかける強い想いで地道に練習を重ねたことで、本番では自分たちでも納得のいく完成度まで高められたと思います。

最後になりますが、社会的にも上演活動が憚られるような状況下で、このような公演を開催できるよう尽力して下さったすべての方々へ感謝します。本当にありがとうございました。



### 間中 あや(4年) 岩淵研究室

今回、岩淵研究室の作品は2つのグループに分けて創作を行いました。これは、感染対策や創作期間を考慮した上で取り組んでいこうと話したためです。私は8人グループが踊る部分を担当し、3人で協力して振り付けました。グループのメンバー1人1人がそれぞれ魅力や個性を持ち合わせているため、それをいかに引き立てられるかを考えながらの創作は、まるでパズルをしているかのように勉強になりました。私自身、踊り方が個性的であるとよくいわれるため、自分の踊り方がメンバーの個性を壊してしまわないか不安でした。しかし岩淵先生の的確な指示や、他2人の振付者のまとめ力、仲間の言葉がけのおかげで不安を乗り越えることができました。

今年の3年生パフォーマンスは例年と違い、本番だけでなく練習でも感染対策を重視して執り行いました。学内で開催される上演行事は新型コロナウイルス感染症流行以来初めてだったので、絶対成功させるべく、換気や対人距離の確保等に気を配りながら創作や本番に励みました。私自身3年生パフォーマンスは、今年を行うことが難しいのではないかと少し落胆していました。しかし先生方や助手さん方の厚く篤い支援の下、3年生パフォーマンスの実施に見事成功できたことが何よりも嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。



### 小林 桃花(4年) 渡辺研究室

2020年度に開催された3年生パフォーマンスは、新型コロナウイルス感染症の影響で例年とは異なる形で開催されました。この経験を通して、一番感じたことは、今まで当たり前に来ていた事が当たり前でなくなり、今までの恵まれた環境に改めて感謝しなければならない事です。

2020年4月、3年生に進級し、これからの2年間を同じ研究室で切磋琢磨し合う仲間との初めての顔合わせも、リモートで行われました。どんな作品を作っていくのかを何度も話し合い、正直に言って、画面越しに話し合うことの難しさを痛感しました。渡辺研究室では、「胡蝶の夢」をテーマにして作品創りを始め、表現したいことが見えている側に通ずれば伝わるのか、とても苦戦し仲間とぶつかり合うことも多々ありました。しかし、決められた練習時間の中で試行錯誤を繰り返しながら、私たちなりに納得のいく作品が完成したのではないかと感じています。

いつ誰かが、感染してしまうか分からない中で、一人一人が感染防止対策を行い不安と緊張感のある日々を過ごしながらも、無事3年生パフォーマンスを迎える事ができとても安心しました。

このような状況の中で開催することができたのは全面的に協力してくださった先生方、助手さん、スタッフの2年生、照明の宇野さん、その他関係者の皆様が支えてくださったおかげであり、本当に感謝しています。経験した事が、次に活かせるよう、仲間と共にレベルアップしていきたいと思えます。



### 瘡師 有紀奈(3年) 舞台監督

私は2020年の3年生パフォーマンスの舞台監督を務めました。舞台監督を務めると決まった際、スタッフ経験の浅い私で務まるのかと不安もありましたがアドバイスや相談にのってくれた同期や初めてのスタッフ経験にも関わらず積極的に動いてくれた1年生、そして先生方や助手さんの協力もあり無事に舞台を成功させることができました。例年の半数以下のスタッフ人数で感染予防対策をしながら公演を運営することは難しく、準備段階から起こりうる問題を想像して進めていくことの重要性を実感しました。舞台監督という貴重な経験をさせていただいたことに加え、例年とは異なる体制で運営したことで分かった良い点や反省点、来年度以降につながる改善点を見つけることができ、とても有意義な経験となりました。そして新型コロナウイルス感染症の影響が続く状況下でリハーサルや当日の演出等に制限がある中で良い作品・公演を創りあげようという3年生の姿を間近で見ることができ、そしてスタッフとして公演を支えられたことを嬉しく思います。今回の経験と学びをこれからの活動に活かし、精進していきたいと思えます。



## 卒業公演

### 千葉 紗可(卒業生) 卒業公演

第19回 日本女子体育大学舞踊学専攻卒業公演はたくさんの方々協力の下、成功することが出来ました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、卒業公演自体中止になってしまうかもしれない状況の中、私たち学生には「踊りたい!」という気持ちがありました。実際にステージで踊ることは難しいのではないかと感じていました。

そんな中、学長を始め舞踊学専攻の先生方のご協力ご支援があり、感染防止対策を徹底した練習内容で場所や時間を組んでくださって、例年よりも少ない時間の中ではありましたが、学生が一丸となって卒業公演の練習を行うことが出来ました。

最初は戸惑う同期もいてなかなか作品が思うように進まない研究室や、オンライン配信のため著作権により使いたい曲が使えず1から考え直す研究室もありました。

卒業公演をなんとか成功させるために全ての研究室が今まで以上にダンスと向き合いました。その結果、画面越しではありましたが4年間の集大成を舞台で発揮することができ、私達は舞台上でこれまでの想いを伝える事の大切さを改めて感じる事ができました。

この卒業公演は私達にとってかけがえのない大切なものになりました。ありがとうございました。今までご指導して下さった先生方、大学で学ぶことの喜びを与えてくれた両親に感謝しています。



## 正課活動

### 小泉 実樹(4年) 舞踊学専攻 卒論発表会

1月にもかかわらず暑いほど晴れた発表会当日1月27日の午後、いつにも増して晴れやかな表情で研究成果を発表する先輩方の姿がありました。その一週間前には卒業公演で舞台上に立っておられた、つまりこの二年間を実技系と論文系の二つの研究室を掛け持ちなされてこられた中に、卒論の成果を披露なさいました。私は松澤研究室に所属していますが、何度か研究室にて中間発表を見させていただいた時とは打って変わって、自身の疑問、課題に向かい、それまで取り組んでこられた研究活動に対して自信に満ち溢れているように見えました。発表後に松澤先生から飛ばされる愛情溢れるも厳しい質問にも堂々と立ち向かう姿は遅く、先輩方への憧れをより一層深めることとなりました。

あと一年の猶予もなく、私たちにも順番が回ってきます。このアプローチで良いのか、これに意味はあるのか。課題と不安は多く、ゴールは遠くにぼんやりとしか見えぬ、コロナ渦の闇が晴れるかどうかもわからない不安な中で、就職、進学、教職など数々の嵐が待ち受ける大変な一年になっていくことでしょうか、この論文を仕上げる経験も未来の自分の一部になっていることを信じて、先輩方のように立ち向かっていきたい所存です。来年の1月、天候も私の心も快晴になりますように。



## 部活動

### 磯崎 紗仁花(卒業生) ソングリーディング部

私たちソングリーディング部GRINSは昨年、2020年12月27日に「ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2020(第20回全日本チアダンス選手権大会)」に出場させていただき、POM部門大学生Large編成で第2位、JAZZ部門大学生編成で第1位ならびに大学生編成チャンピオンを受賞することができました。

世界中の誰もが経験したことのないコロナ禍の中、万全の感染対策を講じ、学校で練習させていただいた大学関係者の皆様、状況が日々変化していく中でも変わらぬ愛で指導して下さった先生方、日々練習に送り出してくれた家族、そして大会開催を決定し、できるだけ多くの選手が出場出来るようにと考え支えて下さった大会関係者の方々、全ての方への感謝を感じた大会でした。また、それと同時にコロナ禍という状況だからこそ、私たちの「踊りたい」という思いがどれだけ多くの方々の努力と支えの下で成り立っているのかを日々感じ、私たちGRINSが今、踊る理由は「ここにある」と改めて確信した大会でした。

私は大学入学前まで、ダンスは自分の為に踊るものだと考えていました。しかし、部活に入部し、今ここにある環境が当たり前ではないこと、応援して下さる方々への愛や感謝を作品に込めて形にすることなど、ダンサーである以前に人として大切なことの全てをこの場所で学びました。この場所で学んだ「感謝を何かの形にして、恩返しする」ということを卒業してから、決して忘れずにいたいと思います。



### 佐藤 うらら(4年) ダンス・プロデュース研究部

この企画は、ダンス・プロデュース研究部部員がWS講師となり、参加者の小学生に身体を動かして遊ぶ中で自由な身体表現を発見し楽しんでもらうこと、みんなで何か1つのものを創り上げることの楽しさを感じてもらうことを目標に、過去10年間世田谷文学館の主催で行って来ました。しかし今年はコロナの影響で開催できるのか不安な状況でしたが、世田谷文学館さんのご協力のもと、無事、子供たちにWSをオンラインで開くことができました。例年は夏休みに対面型で行っていたのですが、今回は季節も冬だったために、企画を一から練り直しました。ですからWSに参加してくれた子供たちから楽しかったという感想を貰うことができた時は本当に嬉しかったです。世田谷文学館さんのYouTubeの方でWSの様子がアップされています([https://www.youtube.com/watch?v=V\\_TTi-iWSOc](https://www.youtube.com/watch?v=V_TTi-iWSOc))ので、是非とも見て頂きたいです。このように普通ではなかなかできない貴重な経験をさせて頂けたのは本当に有り難いことで、改めてダンス・プロデュース研究部という部活は恵まれているなと思いました。



### 林 穂乃佳(3年) ダンス・プロデュース研究部

昨年はコロナウイルスの影響でからびょんとの活動がほとんどできない状態でした。そんな中、唯一舞台上でできたのは烏山音楽フェスティバルでした。烏山区民センターで行われ、久しぶりの舞台上でのからびょんダンスに観客の皆さんも喜んでくださり、とても嬉しかったです。また、区役所の方から、「毎年行っている新年の集いをオンラインでやるのでからびょんも出演してくれませんか」とありがたいお誘いを頂き、からびょんダンサー、そしてボランティアでフラッシュモブ隊を結成し、映像作品としてからびょんダンスを行うこととなりました。区役所の方と話し合いを行い、念入りに企画書を練り、本番では天候にも恵まれ、無事撮影を行うことができました。区役所の方はもちろんのこと、松澤先生や映像の撮影、編集を行って下さった荒木さん、またダンサーの皆さんの協力があったからこそ大成功でした。本当にありがとうございました。あの映像を見て少しでも多くの方が元気になって下さったらとても嬉しいです。からびょんがこれからも沢山のイベントや映像で活躍し、もっともっと有名になって、世田谷区だけでなく、幅広い人々に知っていただけるよう、これからも精いっぱいからびょんと一緒に様々な活動を行っていきたく思います。



### 岩下 想蓉夏(1年) A1クラス

高校時代から憧れだった日本女子体育大学に入学して2週間が経ちました。

入学してすぐに開かれたオリエンテーションでは、上級生の素晴らしいパフォーマンスを目の当たりにして、いつか自分もこんな風に踊れるようになるのだろうか、期待と同時に不安も感じました。しかし、それからすぐに授業が始まって、すでに自分の課題がたくさん見つかり、目の前の課題に精一杯取り組む毎日です。実技以外にも学問としてダンスを学べるカリキュラムも充実していて興味は尽きません。こうしてたくさんのごことを吸収した先に、上級生のようなパフォーマンスができる自分があると信じて、日々努力を重ねていきたいと考えています。

7月にはクラスのみんなとの初めての舞台となるSHOWCASEが予定されています。これから本格的な練習が始まると思うと、さらに期待に胸が膨らみます。

入学前には、このコロナ禍において大学生活はどんなものになるのか心配もありました。今、このような充実した活動ができる環境を作ってくださっている先生方に心から感謝し、クラスメイトや振付をしてくださる先輩方とともに素晴らしい舞台に仕上げたいと思っています。



### 鴨志田 萌(1年) A2クラス

オリエンテーションが終わり、授業が始まって1週間が経ちました。生活面では一人暮らしを始める人がいたり、実技の授業では初めてやるジャンルがあったり、講義ではオンデマンド授業でパソコンを上手く使いこなせなかったり、それぞれで新しい環境に不安が多い1週間でした。私達A2クラスの最初の授業は、教養演習でした。そこでは、アイスブレイクをし、グループでコミュニケーションを取りました。コミュニケーションを取るうちに、人柄が見えてきてどんな思いで日本女子体育大学へ進学したのか分かり、一人一人がとても強い気持ちでダンスをしてきたのだなと感じました。

そして、1年生の初舞台となる夏のSHOWCASEの練習が始まりました。三年生の先輩方がA2クラスのための作品を作ってくださいと聞きどんな作品なんだろうとドキドキしながら教室に入り、振付を見せてもらいました。踊っている先輩方を見てこんなに格好良い2人に振り付けて頂けるなんてとても楽しみだなと思いました。沢山練習をし、作って頂いた素敵な作品を踊り切りたいです。

これから、素晴らしい先生方や先輩方、クラスメイトのいるこの環境の中でダンスを研究していけることに感謝しながら有意義な4年間を過ごしていきたいです。



### 後藤 仁胡(1年) A3クラス

入試当日、「次来るときは必ず日本女子体育大学の学生として。」と心に決めて大学を後にしたことを今でもはっきりと覚えています。そして私は現在、ダンス学科2期生として109名の同志達と共に「日本女子体育大学の学生」となりました。

感染症対策のため座学はオンデマンドですが、先生方や先輩方の対策への意識や努力のおかげで実技を対面で受けることができます。授業が始まって2週間が経ち、素晴らしい環境で学ぶことができてもやはり、初めての環境や自分がやってきたジャンル以外の授業に不安を感じたり悩んだりすることがありました。そんなときに前を向かせてくれるのがA3のみんなです。みんな美人でおしゃれで品があるような子ばかりです。でも、見た目に騙されないでください! 大口開けて笑って、おふざけが大好きな元気いっぱいガールズです。最高にお茶目な担任の八木先生を中心に、「no dance, no life.」という言葉がみんなのためにあるといいたいほどのダンス愛に満ち溢れたA3の仲間達はいつも私に元気をくれて、ダンスの楽しさを教えてくれます。

SHOWCASEの練習開始も目前となり、レベルの高い最高の仲間達と憧れの先輩と作り上げる初舞台が楽しみで仕方ありません。A3らしく、明るく前向きに頑張っていきます!



### 堤 なず菜(1年) B1クラス

日本女子体育大学に入学し、早2週間が経ちました。新しい大学生活に右も左もわからない状況でしたが、ようやくニチジョ生として馴染めてきたような気がします。コロナウイルスの状況の中でも、先生方のご指導の下で実技の授業を行える事に感謝し、毎時間を大切にしています。

B1はとても活気があり、豊かな個性を持ったダンサー達が集結しています。出身やダンス経験がそれぞれ異なる人達が集まり、とても刺激的な環境で日々を送っています。

このような良い環境の中で、いかに自分自身と向き合えるか、表現者として発展できるか。日々の積み重ねを大切に、挑戦する事を恐れずに、これからの4年間が自分にとって価値のある大学生活となるように努力したいです。

そして、これからSHOWCASEの練習が本格的に始まります。ニチジョ生としての初めての舞台です!先生方や先輩方のご協力の下、クラスの皆で団結し、B1でしか創り上げられない最高のパフォーマンスを目指します!



## 西尾 空音(1年) B2クラス

日本女子体育大学に入学して2週間が経ちました。新しい環境への期待と不安もありながら、ダンスが好きという共通点を持った仲間たちと出会い、支え合い、高め合いながら大学生活を送っています。

私たちB2は、出会って間もないとは思えないほどみんなの仲が良く、いつも明るく元気なクラスです。

大学では自分で選択し行動していかなければならないため、わからないことやこれでもいいのかと不安に思うこともたくさんありますが、そのような場面でこそメリハリをつけて集中して取り組めるB2のクラスメイトたちは本当に頼りになります。そんなみんなと、それぞれの足りない部分を補い合い、高め合い、大学という恵まれた環境で共に高みを目指していけることが楽しみで仕方ありません。

私たち一年生の初舞台であるSHOWCASEに向け、先輩方や先生方のご協力と踊れることへの感謝を忘れず、みんなで一致団結して素晴らしい作品をつくれるように頑張ります。



## 松丸 空優(1年) B3クラス

入学してから2週間が経ちました。授業もSHOWCASEの練習も始まり、改めて日本女子体育大学に入学した事を実感しています。

実技の授業はまだまだ慣れず、難しいと思う事が多いですが、これから多くのことを学べるということにとってもワクワクしています。コロナ禍でオンデマンドが主流の中、日女では毎日みんなと顔を合わせ、対面での授業を受ける事ができています。これはとても幸せなことだと思います。

私のいるB3クラスは、ダンスに対してとてもストイックです。踊りに個性があり、同じ振りでもそれぞれ捉え方が違って、自分とは違う新しいものを間近で見ることができ、刺激を受けています。また授業の前に振りの確認をしあったり、クラスメイトの練習に付き合うなど、協力的で向上心に溢れているクラスです。まだ2週間しか経っていませんが、授業でもクラスでも吸収する事が多くあり、これからの4年間で楽しみで仕方ありません。

7月にSHOWCASEがあり、3年生の先輩方が作品の振付、指導をして下さいます。ジャンルも捉え方も違うみんなと踊る作品が、どのように創られていくのかとても楽しみです。クラスで作品を出すのは最初で最後。良い作品になるよう精一杯努力します。



## 内堀 愛菜(M1) 大学院

まず、日本女子体育大学体育学部ダンス学科に入学した新一年生の皆さんおめでとうございます。この先は私自身の話をしますと、今年の春、学部を卒業し、大学院にストレートで入学しました。まず感じたことは大学とはアンダーなんだ、大学院とはマスターなんだということです。この言葉の違いについては是非個人で考えていただければと思います。そして、大学の学生は学部生とも言われます。私は運動科学科を卒業しました。運動科学について考えることよりも学部のときは、ダンスに熱中し舞踊学とは何か、芸術文化の舞踊とは何かを考え学んできました。舞踊学とは、一概に「これだ!」と言えるものはありません。何故なら舞踊学自身が成長し、新しい境地に自ら進み続けているからです。

大学院に入学してからは、オンラインでの授業が始まりました。ディスカッションをベースに幅広い視野を持ち、自分にない考えを吸収し、新たに知識として耕しています。他人の意見に興味を持ち、視点が広がったり、また、自分の意見に興味を持ってもらい、説明しようとしても上手く言葉にできなかったり、知識が不足していたり、日々喜一憂しながらも力を身につけていっています。もし少しでも大学院に興味がありましたら、お声かけください。学部、大学院と学ぶところが違っていても、同じ舞踊界の仲間として、今後も切磋琢磨できるように体調に気をつけながらお互いに頑張りましょう。



## 編集後記

最後までご覧いただきありがとうございます。今年度より1年間、ダンスレターの編集を担当させていただきます。

ダンスレターを通して読者の皆様に舞踊学専攻およびダンス学科の素晴らしい活動の様子をお伝えできるよう精いっぱい努めさせていただきます。よろしくお願い致します。

田中千愛、福島愛菜

# NEWS

## <2021年度オープンキャンパス>

6/13(日) 7/11(日) 8/1(日) 8/22(日)

9/5(日) 12/5(日) 2022.3/21(月祝)

## <ミニオープンキャンパス>

2021.10/30(土),31(日) 健美祭(大学祭)中に開催

## <日本女子体育大学イベント・入試情報>

【日本女子体育大学サイト】

<https://www.jwcpe.ac.jp/>



入試・広報課

ダンス学科



上記のオープンキャンパス、ミニオープンキャンパス、ダンス学科ダンス行事等のイベントは、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により変更が生じる場合があります。必ず本学ホームページをご確認ください。





<http://www.jwcpe.ac.jp/>